



明日香村の在宅医療と介護を含めた拠点整備 基本構想・基本計画（概要版）

この基本構想・基本計画は、将来明日香村において必要とされる医療・介護のあるべき姿を描き出し、進むべき方向性を指し示す指針です。

急速な高齢化の進展に伴い、要介護者が増加することを見据えて、在宅医療と介護を効率的に提供する体制と、日常生活や社会生活を効果的に支援するための体制を構築し、その拠点に必要な機能を備え、住み慣れた地域で安心した暮らし、地域の仲間と支え合える環境、豊かな自然の中であらゆる世代によりそう“トータル的なケア”を推進する拠点整備に向けた方針を策定しました。

本村では2035年に65歳以上人口が生産年齢人口を上回り、2040年にかけて85歳以上人口が増え続けるとともに、介護が必要な人、認知症高齢者、ひとり暮らしの高齢者等、今後、支援や介護を必要とする高齢者は大きく増加することが見込まれます。このことから、自分らしい生き方を見据えた準備・プランニングが求められます。

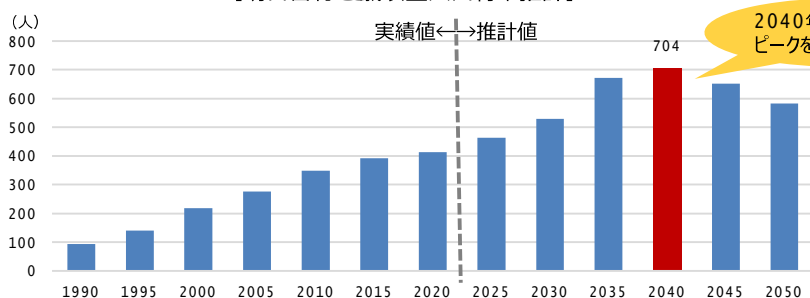
また、高齢者だけでなく、障がいのある人や子どもを含めた医療・介護ニーズの高いあらゆる人が、2040年をむかえても安心して暮らし、自分らしく最期まで生きることができる地域の実現をめざします。

明日香村の医療・介護・保健・福祉における重点課題

【1】認知症の人、終末期を迎える人、障がいのある人等の在宅療養を支えるサービスの充実

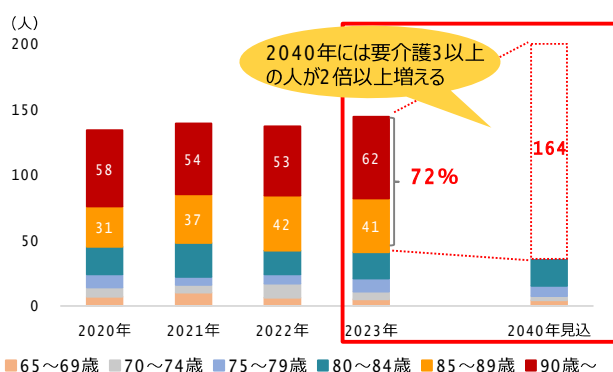
本村の高齢化率は41.1%と非常に高く、加齢とともに要介護認定率および認知症有病率は高くなることから、85歳以上人口がピークとなる2040年にむけて要介護3以上の認定者や認知症高齢者が急増することが予測されます。加齢や障がい、認知症等で介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように、療養生活を支える環境整備は大きな課題です。

【明日香村85歳以上人口将来推計】



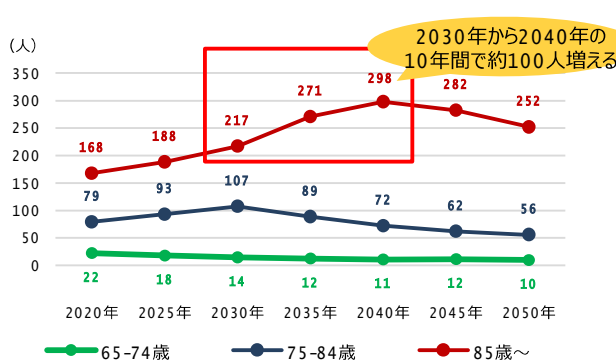
※出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【要介護3以上の年齢別認定者数及び将来見込】



※出典：厚生労働省「介護保険事業状況報告年報」、総務省「住民基本台帳人口・世帯数」、国立社会保障・人口問題研究所より要介護3以上の認定者数算出

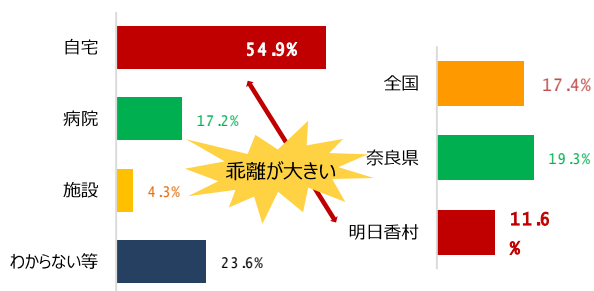
【明日香村の認知症高齢者数の将来推計】



※出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する調査」より作成

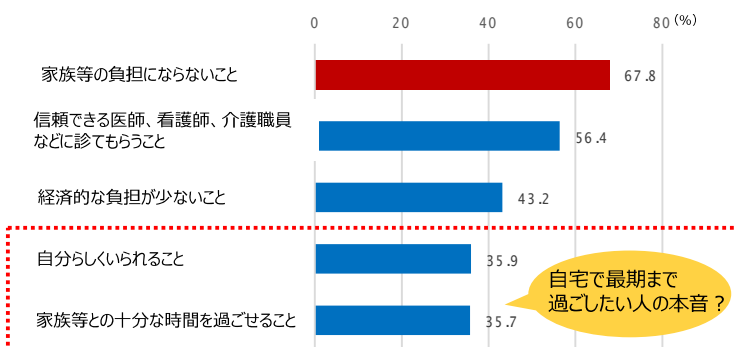
2023年に村内の自立高齢者に調査した結果では、人生の最期を迎えたい場所として55%が自宅を希望していましたが、自宅死は11.6%と県内でも低く、村民のニーズと実態に乖離がみられます。その背景として、本村は8病院が所在する橿原市に隣接し、医療機関にアクセスしやすい環境にあることや、家族の負担にならないことを重視している人が多いこと等があげられます。障がいがある人も同様に、自宅で適切な医療的ケアが受けられること、同居家族等の支援のニーズが高く、当事者と介護者の両方にむけた支援が必要です。

【人生の最期を迎えたい場所】



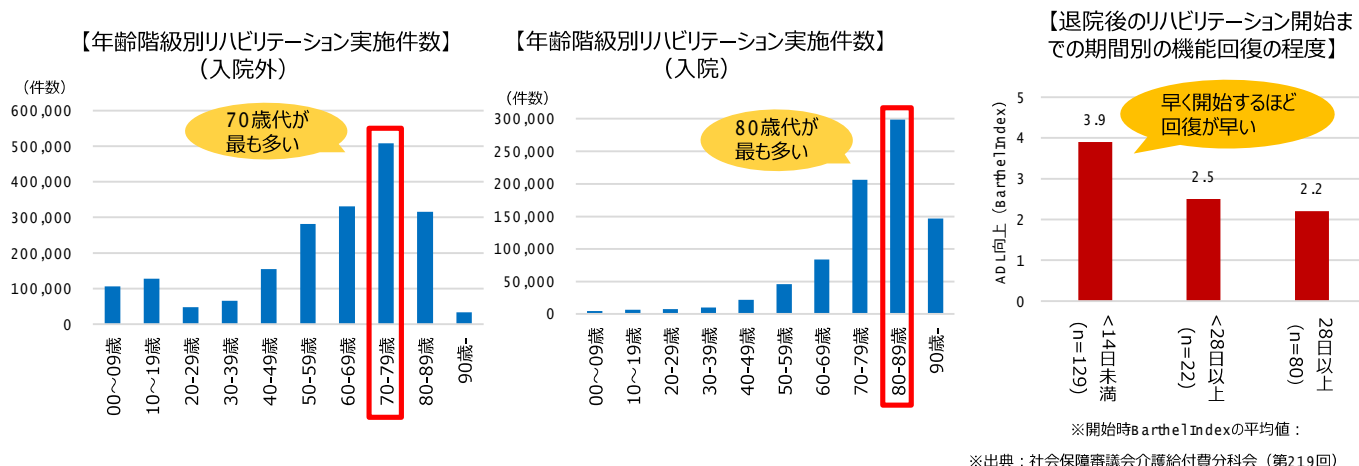
【自宅死割合】

【人生の最期を迎える際に重要なこと（上位5つ）】



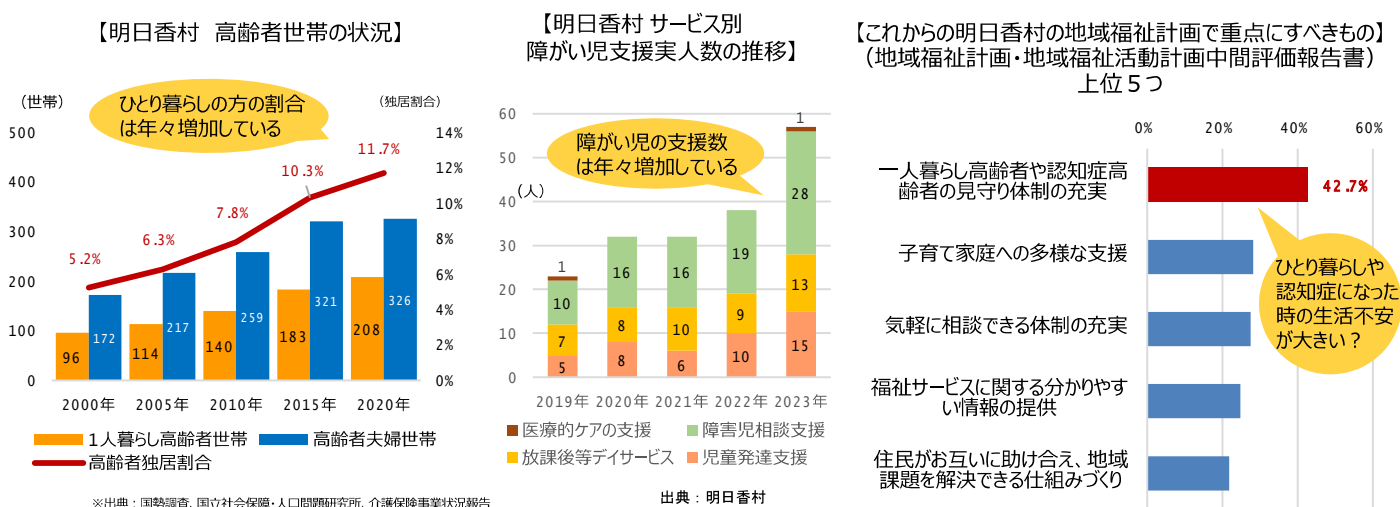
【2】多様なリハビリテーションニーズに対応する環境整備

障がいをもっていても、自分らしい人生を送れるように、それぞれの状態に応じリハビリテーションで生活機能を維持することが重要です。85歳以上人口が増加する2040年にむけて、入院後のリハビリテーションから在宅や介護保険へのリハビリテーションに速やかに移行できる環境が求められるほか、介護予防・フレイル予防に取り組み、健康寿命の延伸を図ることも重要です。複雑化する多様なリハビリテーションのニーズに対応できる環境整備が求められています。



【3】地域での暮らしを支える仕組みづくり

本村のひとり暮らし高齢者世帯の割合は2025～2030年まで年々増加傾向にあります。村民を対象に実施したアンケート調査では、ひとり暮らしや認知機能が低下してきたときの生活に不安を感じている人が多くいることがうかがわれます。障がい児相談支援も年々増加しており、こどもを含む障がいがある人や高齢者等あらゆる人が安心して地域で生活するために、災害時や緊急時の対応も見据えた、医療・介護関係者等の連携や情報共有の促進等、地域での暮らしを支える仕組みづくりが必要となります。



【4】介護予防・健康づくりの充実

いつまでも元気に暮らし続けるためには、医療・介護を必要となる前に予防や健康づくりが必要となります。すでに取り組まれている保健事業や介護予防事業の充実化を図るとともに、多職種協働による取り組みの質の向上や、これらの予防活動に参加しやすい環境づくりが必要です。予防・健康づくりを習慣化する啓発や環境、支援も課題です。

【5】地域で支え合い、生きがいをもって活躍できる環境づくり

子どもから高齢者、障がいのある人等を含め、地域で支え合う地域コミュニティの充実を図る必要があります。地域コミュニティの活性化は、ひとり暮らし高齢者や認知症の人の見守り機能も期待できます。高齢化や人口の減少が進むなか、地域住民が支え合い、互いに協力し合う等の関心を高め、誰もが気軽に参加できる地域サロン等の通いの場、居場所づくり、地域コミュニティが必要となります。

明日香村の目指すべき医療・介護・保健・福祉の姿（基本理念）

「いつまでも自分らしく安心して暮らせるむら明日香」

「住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく安心して暮らしていくこと」が多くの村民の願いであり、本村が目指すべき姿です。あらゆる人が、自分らしく最期まで生きることができる地域を実現するためには、医療・介護・保健・福祉の分野が連携し、インフォーマルサービスや社会参加の場を充実する等、自分らしく暮らせるための複数の選択肢を提供するとともに、各種の支援が切れ目なく提供される、トータル的なケアの拠点「トータルケアステーション」の整備が必要となります。

ここでいうトータルケアステーションとは、医療・介護・保健・福祉の各種サービスを「包括的につなぐ役割を担う拠点」であり、村民が状態像によって必要とするサービスにアクセスしやすくなるための拠点をイメージした名称です。

灯台が船舶の安全な航行を目指す光を発するように、トータルケアステーションが“村民の日々の暮らしや心に安心をもたらす灯り”、“自分らしい生き方を選択できる灯り”、“支え合う人や情報が集まり多様なサービスにつながる灯り”、“生きがいをもって社会参加でき地域の担い手につながる灯り”となり、あらゆる人が「いつまでも自分らしく安心して暮らせるむら明日香」を目指します。



明日香村健康福祉センター「たちばな」にトータルケアステーションを整備します



本村の健康福祉センター「たちばな」（以下、センターという。）は、1997年4月の開設以来、全年齢層を対象に本村の保健・医療・福祉の拠点としての役割を果たしてきましたが、老朽化等、ハード面をふまえたセンターの機能の見直しが必要な時期にきています。

今後増加が見込まれる要介護高齢者や、障害のある人や子どもを含めた医療・介護ニーズの高いあらゆる人が安心して暮らし続けるために、センターがこれまで果たしてきた役割や特性、村内外の医療・介護資源等の状況をふまえ、トータルケアステーションとしての機能・役割をセンター内に整備することとします。

基本理念を踏まえた「5つの基本方針」とそれぞれの方針のポイント

「いつまでも自分らしく安心して暮らせるむら明日香」

基本方針

方針のポイント

(1) 在宅医療・介護の充実

- あらゆる人が適切な在宅ケアを受けられる環境整備
- 在宅での療養、看取りを支える医療、看護、介護のサービス提供体制の充実
- 村内外の事業所や多職種の専門的なサポート、ICTの活用等連携体制の構築
- 家族介護者の負担を支える取り組み
- 最期まで自分らしい人生・生活を過ごすことを支える意思決定等の支援

(2) 地域リハビリテーションの 促進

- 予防から回復期、生活期、終末期まで多様なニーズに対応したリハビリテーションの提供
- フレイル予防活動の充実
- リハビリテーションの必要性、効果等の情報発信
- 日常生活のなかで気軽に、楽しくリハビリテーションに取り組める環境整備
- 多職種や関係機関との連携促進

(3) 日常生活支援の充実

- 移動支援等、介護保険サービス等の制度以外を含めた生活を支える仕組みづくり
- 地域での見守り活動の促進
- あらゆる人が各種サービスにアクセスしやすくなる環境づくり
- 地域及び医療・介護・福祉関係者等の連携・情報共有の促進
- 災害時、緊急時等に対応できる体制整備

(4) 予防活動・健康づくりの 推進

- 保健予防活動・健康づくりの啓発活動
- 自主的に健康維持、予防等に取り組める仕組みづくり
- 運動、健康づくり等のイベントを通した「地域のつながり」の強化
- 日常生活のなかで気軽に取り組み、習慣化できる仕組みづくり

(5) コミュニティの活性化 (地域のつながり)

- 地域における多世代の交流や世代を超えた活躍の場の充実
- 子ども、高齢者、障がいのある人等、あらゆる人が気軽に集える顔が見える場の整備
- 高齢者の社会参加を支援する仕組みづくり
- 年齢を重ねても活躍できる等、生きがいを持てる地域づくり

センター内に導入する5つの「トータルケアステーション」の機能と役割

1

在宅療養を支える医療機能（明日香村国民健康保険診療所）

在宅医療・介護の充実

- 小児から高齢者まで、医療ニーズの高いあらゆる人が在宅で適切なケアを受けられるよう、**在宅療養支援、かかりつけ医療機能**等の体制整備を強化します。
- 医療ニーズの複雑化・多様化に対応するため、医師、看護師のみならず、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士、公認心理師等**多職種による連携**の推進、研修医の受け入れ、職員の増員・教育に対応するための**諸室を拡張**し、医療体制の強化を図ります。
- 小児の知能検査の実施等、発達障がい診断や養育による適切な支援につなぐ体制整備など、**小児医療**の充実を図ります。
- 医薬分業として**調剤薬局を設置**し、医療の質と安全性を高め、薬剤師による薬剤説明、処方薬の配達、訪問薬剤師による在宅服薬管理等にて在宅医療の充実を図るとともに、診療所職員の業務負担の軽減、事務スペースの確保を図ります。
- 村内外の多機関・多職種との協働及び連携による医療と介護のシームレスな提供体制の構築にむけて、**ICT（情報通信技術）**の整備、運用を推進します。
- 最期まで自分らしい人生・生活を送るために、**意思決定等の支援**に積極的に取り組みます。
- 災害時には近隣の医療関係団体と連携し、地域の医療体制を支える役割を果たせるよう、**災害医療**の機能強化を図ります。

2

多様なニーズに対応できるリハビリテーション機能

地域リハビリテーションの促進

- 脳血管疾患等の発症により生活機能障がいに伴う人に、社会復帰等を目的とした**回復期のリハビリテーション**の提供ができる**リハビリテーション室**を新設し、生活機能の維持・回復を図ります。
- 在宅で安定した生活を維持するために、体力維持や身体機能の向上を目的として、個々の必要性に応じた**生活期のリハビリテーション**が提供できる体制を整備します。
- 理学療養士等の専門職と連携して個人の体力や状態に合わせて安全かつ効果的なトレーニングが学べるよう、既存の**運動指導室（トレーニングルーム）**の機能を強化します。
- 医療・介護・保健・福祉および地域住民との連携を強化し、リハビリテーション専門職が地域の多様な場で活躍する**地域社会活動の拠点化**を図ります。
- 村民が積極的にリハビリテーションや運動等に取り組めるよう、リハビリテーションや運動の必要性や効果等の情報発信を行う**啓発活動**を行います。



リハビリテーション室の例（真鶴町国民健康保険診療所）

3

さまざまな日常生活支援機能

日常生活支援の充実

- 社会福祉協議会をセンター中央の来訪者から良く見える位置に配置し、日常生活の支援や相談などに対応する**包括的な相談支援窓口**として、地域の**社会資源をつなぐ拠点機能**を整備します。
- 社会福祉協議会を主体に、地域包括支援センターとも連携して、移動手段の支援等、介護保険等の制度に縛られることなく誰もが利用できるサービスを含めた**生活支援の仕組みづくり**に取り組みます。
- 高齢者だけでなく、子どもや障がい者も含めたケアやサポートの各種サービスにつながりやすくなるように、だれもが気軽に立ち寄りやすい開かれた**総合窓口**を設置します。
- 就労等で病気や体調不良の子どもの保育が困難な場合等でも安心して子育てができる環境を整備し、福祉の充実を図ります。
- ボランティア制度の見直し、強化を図り、日常生活支援の担い手となるボランティアの養成、確保に取り組みます。
- **SS等**の活用等、必要な人に必要な情報をタイムリーに届ける情報発信機能を強化します。
- 大字のサロンでの交流を促進し、地域の見守り機能を強化します。
- 周辺の関係機関と連携調整を行い、災害時や緊急時にもケアが必要な方が安心して過ごせるようバックアップ体制を整えます。



総合窓口カウンターの例（真鶴町社会福祉協議会）



病児・病後児保育室の例（米原市地域包括医療福祉センターふくしあ）

- これまでセンター内で実施されている健康づくりや介護予防に資する事業や地域活動等を人口やニーズの変化に柔軟に対応しながら継続し、充実化を図るとともに、多職種協働による取り組みの**質向上**を図ります。
- これらの予防活動に参加しやすい環境を整備し、予防・健康づくりを**習慣化**する啓発や支援の強化を図ります。
- 高齢者をはじめ、若い世代も対象とした健康に関するセミナーや勉強会等のイベントを他機関が連携して定期的に開催し、**参加者層の拡大、活動の活性化**を図ります。
- 既存の**運動指導室（トレーニングルーム）を拡張**し、子どもや若い世代、健康な高齢者の体力維持、向上を目的に、より多くの村民が気軽に体を動かすことができる環境を整備します。
- 村民のフレイル予防や健康づくりへの関心や意欲の向上を図るため、**A Iによる健康チェック**等ICTを活用した取り組みを推進します。
- センター内に誰もが気軽に専門職等に**健康や暮らしの相談や交流**ができる場を提供します。

- センターの屋内外に、子ども、高齢者、障がいがある人等あらゆる人が気軽に集い・交流できる**にぎわいの場**をつくり、コミュニティの活性化を図ります。
- 子どもから高齢者、障がい者、認知症の方等さまざまな立場の人が一緒に食事ができる**カフェスペース**をつくり、安心の居場所をつくれます。
- カフェスペースや屋内外のフリーエリアを活用し、センター関係者が連携して定期的にイベント等を開催し、**顔がみえる関係づくりと施設の活性化**を図ります。
- カフェの運営やイベントの活動の担い手として高齢者や障がい者等に活躍していただくことで、**生きがいや就労の場**を創出する機能を果たします。



コミュニティスペース・カフェの例
八王子市公共施設「プレスコ南大沢」1階茶室 プラスαcafe

【センターに導入する機能の整理】

機能		新設	拡充	流用	センターの現況の諸室
(1)在宅療養を支える医療機能	診療所		○		明日香村国民健康保険診療所
	調剤薬局	○			—
(2)多様なニーズに対応できるリハビリテーション機能	リハビリテーション室	○			—
	トレーニングルーム		○		運動指導室
(3)さまざまな日常生活支援機能	相談支援の総合窓口			○	明日香村社会福祉協議会
	情報発信機能	○			—
	病児・病後児保育	○			—
(4)フレイル予防・健康づくりの拠点機能	トレーニングルーム		○		運動指導室
	シャワー、更衣室			○	浴場
	各種教室 セミナールーム			○	会議室、栄養指導室、 創作活動室
(5)地域が自然とつながる多世代交流機能	コミュニティカフェ	○			—
	地域活動 イベントスペース			○	1・2階のフリースペース、 会議室、図書室、キッズスペース

